

学院創立九十周年にあたって

桃山学院長 竹内正巳

学院創立90周年を記念して、記念論文集の作成を教授会にお願いしていたが、それが経済経営学会誌と社会学会誌と別々にではあるが、学会誌の記念特輯というかたちで、立派にできあがったことは、真によろこばしい。執筆をいただいた先生方に心からお礼を申しあげる。

最近、共同研究、ことに学際間協力による研究の必要性が強く要求されるようになってきているが、専門分野毎の共同研究は兎に角として、学際間協力による共同研究には著しいおくれがみられる。そこで私は、記念論文集は統一テーマに結集して学際協力研究を試みるか、或は昭和46年度以降この大学で採用しているカリキュラムのプロジェクトを中心に、各プロジェクトの中心課題又は総論にあたる部分を軸に、学際協力研究に相応しいテーマをたてて教育と研究体制との有機的な連繫をはかる手だてとしてはどうかという考えをもっていた。この考えは時間の制約もあって学会員の十分な討議の機会もなく、結局、各自の自由意志による執筆が建前となっている学会誌の記念号に終わってしまった。

このことを通じて私は、共同研究推進のためには、専門を同じくする人々は勿論のこと、専門分野のことなる人々もたえず集まって共同で討議しあう場の設定が必要であり、そのための研究施設の整備をいそがねばならないということを痛感した。

このような研究施設の必要性は、教授会からも提起され、大学附属研究所の設置が具体的日程にのぼっている。90周年記念事業に引続いて教育研究振興基金的なものを設けて総合的な研究機関の整備をはかるよう努めていきたい。学院創立90周年は、大学創立15周年でもある。教育研究体制と施設整備に今後一層の努力を要するが、特に研究機関の整備には力が注がれねばならないと思っている。私のこの願望が達成されれば、大学創立20周年記念論文集は、名実ともに学際協力の実を誇りうるものを期待できると思う。

1974年10月